

■概要

ナショナルサイバートレーニングセンターは、情報通信分野を専門とする我が国唯一の公的研究機関であるNICTの技術的知見、研究成果及び研究施設等を最大限に活用し、実践的なサイバートレーニングを企画・推進する組織として、平成29年4月1日に設置された組織である。

当センターは、「サイバートレーニング事業推進室」と「サイバートレーニング研究室」で構成されており、相互に密接な連携をとりながら、サイバーセキュリティないしICTに係る人材育成事業として、「セキュリティオペレーター（実践的運用者）」育成事業及び「セキュリティイノベーター（革新的研究・開発者）」育成事業を行いつつ、これら事業に関連する研究・開発を行っている（図1）。

「セキュリティオペレーター」育成事業については、行政機関や民間企業等の組織内のセキュリティ運用者を対象に、所属組織が深刻なサイバー攻撃を受けた際、すなわち「有事」に即応可能なインシデント対応能力を育成することを目的に、実機を用いた実践的サイバー防御演習として、「CYDER（サイダー）（CYDER：CYber Defense Exercise with Recurrence）」及び「サイバーコロッセオ」の2つの演習を実施している。

「セキュリティイノベーター」育成事業については、セキュリティマインドを持ち、既存ツールの運用にとどまらず、革新的なセキュリティソフトウェア等を自ら

「研究・開発」していくことができるハイレベルな人材を育成することを目的とした「SecHack365（セックハック サンロクゴ）」を実施している。SecHack365では、若年層のICT人材を対象に、サイバーセキュリティに関するソフトウェア開発や研究、実験を1年間継続してモノづくりをし、その成果を発表する機会を提供する長期ハッカソンによる人材育成に取り組んでいる。

■主な記事

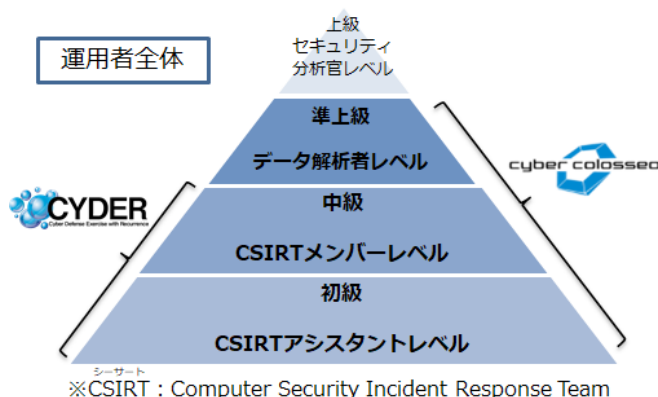
1. 「セキュリティオペレーター」育成事業

(1) 「CYDER」の概要と実績（図2）

セキュリティ人材の育成が喫緊の課題となっている現在、当センターは、情報通信研究機構法第14条1項7号に基づく業務として、NICTが有する大規模サーバー群「StarBED」を活用することにより、大規模組織のネットワーク環境を擬似的に構築した上、NICTのサイバーセキュリティ研究に係る技術的知見を活用することで、最新のサイバー攻撃事例をベースとしたリアルな演習プログラムをコンパクトな日程で提供する実践的サイバー防御演習CYDERを、全国的に実施・展開している。

これにより、全国各地の演習受講者は、組織の情報システム担当者として演習に参加し、組織のネットワークを模した環境下で、サイバー攻撃の検知から対応ないし報告までの一連の流れが1日に凝縮されたプログラムを体験しながら学ぶことが可能となっている。

セキュリティオペレーター（実践的運用者）の育成



セキュリティイノベーター（革新的研究・開発者）の育成



図1 ナショナルサイバートレーニングセンター事業概要

平成30年度においては、対象者に応じた演習シナリオを用意し、より多くの受講機会を確保するため、従来の地方公共団体及び国の行政機関等向けの初級レベルの演習(Aコース)、中級レベルの演習(B-1コース、B-2コース)に加え、重要社会基盤事業者向けのB-3コースを新設した。そして、前年度に引き続き、全47都道府県において、合計100回以上の演習を実施した結果、平成25年度の演習開始からの累計受講者数が8,000人に迫るなど、CYDERは、日本最大級のサイバーセキュリティ演習プログラムに成長した。石田真敏総務大臣や佐藤ゆかり総務副大臣、國重徹総務大臣政務官及び中央省庁関係者など多数の方がCYDERをご視察されており、演習への関心が一層高まっている。

(2)「サイバーコロッセオ」の概要と実績(図3)

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会まで2年を切る中、必要な能力を兼ね備えた人材を大会開催までに段階的・計画的に育成していくことを目的とし、当センターは、平成29年度から、大会関連組織のセキュリティ関係者に対する「サイバーコロッセオ」を実施している。本事業は攻防戦を含む実践的実機演習等を行う「コロッセオ演習」を中核プログラムとし、平成30年度からは、「コロッセオ演習」と連携し、前提・周辺知識習得を支援する選択受講制の講義演習群「コロッセオカレッジ」を新設した。

2.「セキュリティイノベーター」育成事業

(1)「SecHack365」の概要(図4)

当センターは、NICTが有する遠隔開発環境「NONSTOP」及び研究・開発に関する知見や人的資源

という強みを活用することにより、ほかに類を見ない、1年を通して行われる、アイデアソン、ハッカソン、遠隔研究・開発、発表の組合せによる総合的能力開発プログラム「SecHack365」を平成29年度から提供している。

(2)「SecHack365」の実績

実施2年目となる平成30年度においては、345名から応募を受け付け、選抜された50名の受講者(トレーニー)に対し、セキュリティに関わる研究・開発のトレーニングを実施した。50名のトレーニーに対しては、遠隔研究・開発環境の提供及びトレーナーからの遠隔指導と並行して、国内各地における計6回の集合研修での指導がなされ、その研究・開発成果が、3月の最終成果発表会において発表された。この発表会には、報道関係者やサイバーセキュリティ関係者が多数来場し、受講者らに対し、発表内容等に関する取材・質問をするなどしていたほか、佐藤ゆかり総務副大臣も視察に訪れるなど、政府機関の行う新しい若手ICT人材育成事業として高い社会的関心を集めた。また、修了生及び現役生から選抜された6名を米国オースティンで開催された世界最大級のクリエイティブイベントSXSW(サウス・バイ・サウスウエスト)に派遣し、同イベント内のハッカソンにおいて、3名がeluvio社からのスポンサー賞を受賞した。さらに、当センターは、平成30年度から、今後も輩出されることが見込まれる修了生のコミュニティ構築にも着手し、修了生向けのコミュニケーションツールの導入、修了生を対象としたイベント「SecHack365 Returns」を実施するなど、本プログラムに継続性・発展性を持たせる取組を開始している。

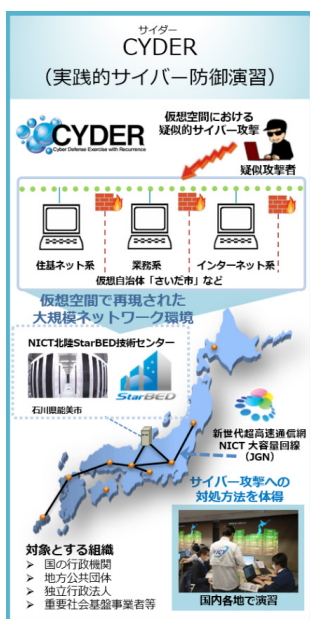


図2 CYDERの概要



図3 サイバーコロッセオの概要



図4 SecHack365の概要